

学位論文要約

体育授業研究における教師教育者の  
「学び」に関する基礎的研究

— 中国人留学生によるセルフスタディを通して —

広島大学大学院教育学研究科  
教育学習科学専攻 教科教育学分野  
健康スポーツ教育学領域

D191100 敖敦其其格

## 1. 論文の構成

### 第1章 研究の背景及び研究の目的と方法

#### 第1節 研究の背景

- 第1項 教師教育者の専門的学習に関する議論
- 第2項 中国の教師教育改革とそれを支える教師教育者の実態と課題
- 第3項 授業研究と教師教育者の関係性：日本の体育授業研究を中心として

#### 第2節 問題の所在及び研究の目的

#### 第3節 研究の方法及び論文構成

- 第1項 方法
- 第2項 本論文の理論的枠組み
- 第3項 本論文の構成及び調査方法と分析方法
- 第4項 研究の対象者

#### 第4節 用語の規定

注釈

### 第2章 中国人留学生の体育授業研究の観察による教師教育者としての「学び」の実態

#### 第1節 本章の目的

#### 第2節 研究の方法

- 第1項 対象校の属性
- 第2項 調査内容と調査方法
- 第3項 分析の手続きと倫理的配慮

#### 第3節 結果

- 第1項 中学校 B における研究授業の観察を通じた「学び」
- 第2項 小学校 C における研究授業の観察を通じた「学び」
- 第3項 中学校 B における協議会の参加を通じた「学び」
- 第4項 小学校 C における協議会の参加を通じた「学び」
- 第5項 小学校 A における学校視察を通じた「学び」

#### 第4節 考察

- 第1項 日本の体育授業研究のシステムや体育授業づくりの仕組みに関する「学び」
- 第2項 日本の授業研究を支える学校文化についての「学び」

#### 第5節 小括

### 第3章 中国人留学生の体育授業研究の参画による教師教育者としての「学び」の実態

第1節 本章の目的

第2節 研究の方法

第1項 対象の授業研究

第2項 調査内容と調査方法

第3項 分析の手続きと倫理的配慮

第3節 結果

第4節 考察

第1項 Lewis (2015) の4つの段階における「学び」

第2項 Lewis (2015) の4つの段階の間の領域における「学び」

第3項 体育授業研究における指導助言者としての「学び」の契機

第5節 小括

#### 第4章 中国人留学生の体育授業研究の企画・運営による教師教育者としての「学び」の実態

第1節 本章の目的

第2節 研究の方法

第1項 対象の授業研究

第2項 調査内容と調査方法

第3項 分析の手続きと倫理的配慮

第3節 結果

第1項 留学生Aの企画・運営した体育授業研究が参加者に与える影響

第2項 体育授業研究の企画・運営を通じた留学生Aの「学び」

第4節 考察

第1項 体育授業研究の企画を通じた「学び」

第2項 体育授業研究の運営を通じた「学び」

第3項 体育授業研究の企画・運営を通じた自己課題による「学び」

第5節 小括

#### 第5章 本論文の成果と今後の課題

第1節 本論文の成果

第2節 本論文の限界と今後の課題

第3節 今後の展望

引用文献

## 2. 研究の背景及び問題の所在

教師教育の質を保証する条件の1つとして、教師教育者の存在が注目されている。しかし、教師教育者の定義は、国とその背景ごとに様々であり、教師教育者になるまで、多様な経歴を持ち、その職務も多様である (Lunenberg, 2010)。そして、1980年代では教師教育者について、ほとんど研究されていなかった (Lanier and Little, 1986) が、1990年代後半からようやく教師教育者に関心が向けられ、教師教育者に関する研究も次第に増えてきた (Koster et al., 2005)。Cochran-Smith (2003) は、教師教育者としての役割を担うために、教師教育者による専門的学習 (professional learning) が不可欠であることを指摘している。

ところで、Kosnik et al. (2015) は、教師教育者の専門的学習は体系的に行われておらず、その多くは実践の場で「やりながら学ぶ」(p.71) ことによって行われていることに言及している。また、ルーネンベルクほか (2017) は、教師教育者の「学びが体系的な形で構成されていることはほとんどなく、学習の質は現場における学習機会によって左右される」(p.53) と指摘している。したがって、学習の質は教育現場、つまり教育制度や学校文化の違いによっても大きく異なり、その学習の機会も教師教育システムにより差異があるであろう。そして、教師教育者の学びが体系的に構成されにくい (ルーネンベルクほか, 2017) のであれば、その国、独自の場における専門的学習が必要である。しかしながら、アジア圏においては、教師教育者に関する学術的研究は未だ少ない (小柳, 2018; 鄭, 2013)。しかも、アジア圏の教師教育者が、固有の専門的学習をどのように成しているのかといった研究も少ない。さらに、黄 (2017) によると、中国の教師教育は発展途上であり、さらなる進展が必要であるといわれている。

そこで、中国の教師教育の背景や職務に共通点が多い日本の教師教育に目を向けてみる。日本には、教育の高い水準を担保し、教職の専門性を高度化する校内研修・教師教育のあり方として、世界的な注目を集めている授業研究がある。さらに、国際協力の分野においても授業研究の普及と研究推進に向けた取り組みが1つのムーブメントとなっている (Huang and Shimizu, 2016)。齊藤 (2020) は、「他国にレッスン・スタディを紹介・導入していく際、体育の授業は、言語的障壁が比較的小さい」(p.66) ことを挙げている。また、木原ほか (2018) は、体育授業研究では子どもの学習のつまずきに対して運動の出来具合が観察しやすく、「すべての教師がなぜできないのか、なぜわからないのか」(p.61) という問いを共有しやすいという。したがって、体育授業研究の参加者らは、研究授業の実施の段階で子どものつまずきを観察しやすく、授業後の協議会では授業者や他の参加者らと気づいたつまずきを共有することができる。つまり、体育授業研究は、授業者だけでなく、授業研究会の全ての参加者の成長に寄与しうることが期待される。そこで、本論文では体育授業研究に着目することとした。

他方、授業研究に関わる教師教育者とは、授業研究に長年関与してきた専門性を有する者や地域のリーダー的な存在の教師 (鈴木, 2016)、教育行政機関における指導主事や外部講師あるいは指導助

言者として頼みを受けた大学教員（岩田，2020）などである。授業研究において教師教育者には、リーダーシップとしてのコーディネーションの力（木原，2006），そして何よりファシリテーターとして参加者が信頼できる環境を作ることが必要であるとされる（Sato et al., 2020）。しかしながら，教師教育者が授業研究の中で，どのように専門的学習をしていくのかといった研究は皆無に等しい。したがって，日本のみならず，中国における教師教育発展の一助のためにも，体育授業研究を通じた教師教育者の「学び」について検討することは有意義であると考えられる。

### 3. 研究の目的

そこで本論文の目的は，中国から日本へ来た教師教育者を目指す留学生（以下，留学生 A と略記）を対象に，体育授業研究を通じた教師教育者としての「学び」の実態を明らかにすることである。本論文の目的を達成するために，以下の3点を研究課題として設定した。

研究課題（1）日本の体育授業研究の観察による留学生 A の教師教育者としての「学び」の実態を明らかにする。

研究課題（2）日本の体育授業研究において，指導助言者として参画することによる留学生 A の教師教育者としての「学び」の実態を明らかにする。

研究課題（3）中国の教員養成校における体育授業研究の企画・運営による留学生 A の教師教育者としての「学び」の実態を明らかにする。

なお，本論文における「学び」とは，留学生 A の体育授業研究における，モノ（対象世界）との出会いと対話による活動，自己との出会いと対話による反省，他者との出会いと対話による協同の積み重なった過程（佐藤，1995）として捉える。そして，その前提として，留学生 A 自身が認知した様々な刺激の中から特徴的なものに焦点を当て，それを個人的な経験として言葉を使って表現する気づき（Schmidt, 1990）も含めるものとする。

### 4. 研究方法論

研究の目的を達成するために，「セルフスタディ」（LaBoskey, 2004）を援用する。セルフスタディは，教師教育者が意図的に当事者自身の教育活動を振り返り（Clarke and Erickson, 2004），自分及び自分の関わる集団（協同する仲間や組織も含む）を対象とすることに特徴を有する。それによって，教師教育実践の理論化を促進し，教師教育者の専門性開発を進めていく方法論である（ロックラン，2019）。

一方，セルフスタディは，必ずクリティカルフレンドとの協同で行われる（Saramas, 2010）。クリティカルフレンドとは，実践者が自身の実践を振り返る際に，枠組みを再構築することを助ける仲間のことであり，互いの信頼関係をベースとしつつ，時には厳しいフィードバックをし，ともに実践を振り返りながら実践者が経験から学び，専門性を高めることを助けるとされている（Russell and

Schuck, 2005).

そこで本論文では、セルフスタディを用いて留学生 A の教師教育者としての「学び」の実態を明らかにする。

## 5. 本論文の理論的枠組み

レイブ・ウェンガー（1993）は、「学習を実践共同体への参加の度合いの増加と見ること」（p.25）とし、特定の社会的実践を展開している共同体に参加することで学習が起こり、その学習は参加者個人のみではなく、実践共同体にも生起していると捉えている。このような「実践共同体（Community of Practice）」に参加することを通して学ばれる知識・技能の習得とアイデンティティの形成を「状況的学習（situated learning）」と呼んだ。また、レイブ・ウェンガー（1993）は、参加者が限定的で与えられた部分的課題を進行できる段階を「周辺の参加（peripheral participation）」とし、実践のために計画・実行などができるようになる段階を「十全的参加（full participation）」とした。そして、「周辺の参加」から「十全的参加」へと移行する条件として、「広範囲の進行中の活動、古参者たち、さらに共同体の他の成員にアクセスできなければならない。さらに、情報、資源、参加の機会へのアクセスも必要である」（pp.83-84）と述べている。すなわち、周辺の参加において、新参者から古参者へと移行していき状況的学習を経ることによって十全的参加をしていくのである。このように「周辺の参加」が「十全的参加」へと移行するプロセスを、レイブ・ウェンガー（1993）は、正統的周辺参加として理論化した。

そこで、本論文では、正統的周辺参加論を援用し、留学生 A の体育授業研究の観察、参画、企画・運営を通じた教師教育者としての「学び」の実態を検討する。

## 6. 本論文の構成と方法

本論文の構成は、図 1 に示す通りである。本論文では、留学生 A を事例に、体育授業研究を通じた教師教育者としての「学び」の実態について、質的調査法を用いて明らかにする。具体的には、以下の通りである。

第 1 章に続く第 2 章では、体育授業研究の観察による留学生 A の教師教育者としての「学び」の実態を明らかにする。第 3 章では、体育授業研究において指導助言者として参画することによる留学生 A の教師教育者としての「学び」の実態を明らかにする。第 4 章では、体育授業研究の企画・運営による留学生 A の教師教育者としての「学び」の実態を明らかにする。最後に、第 5 章の本論文の成果と今後の課題では、第 1 章から第 4 章を踏まえ、留学生 A の体育授業研究の観察、参画、企画・運営を通じた教師教育者としての「学び」の実態を明らかにする。なお、これらの成果から、本論文の限界と今後の課題についても整理する。

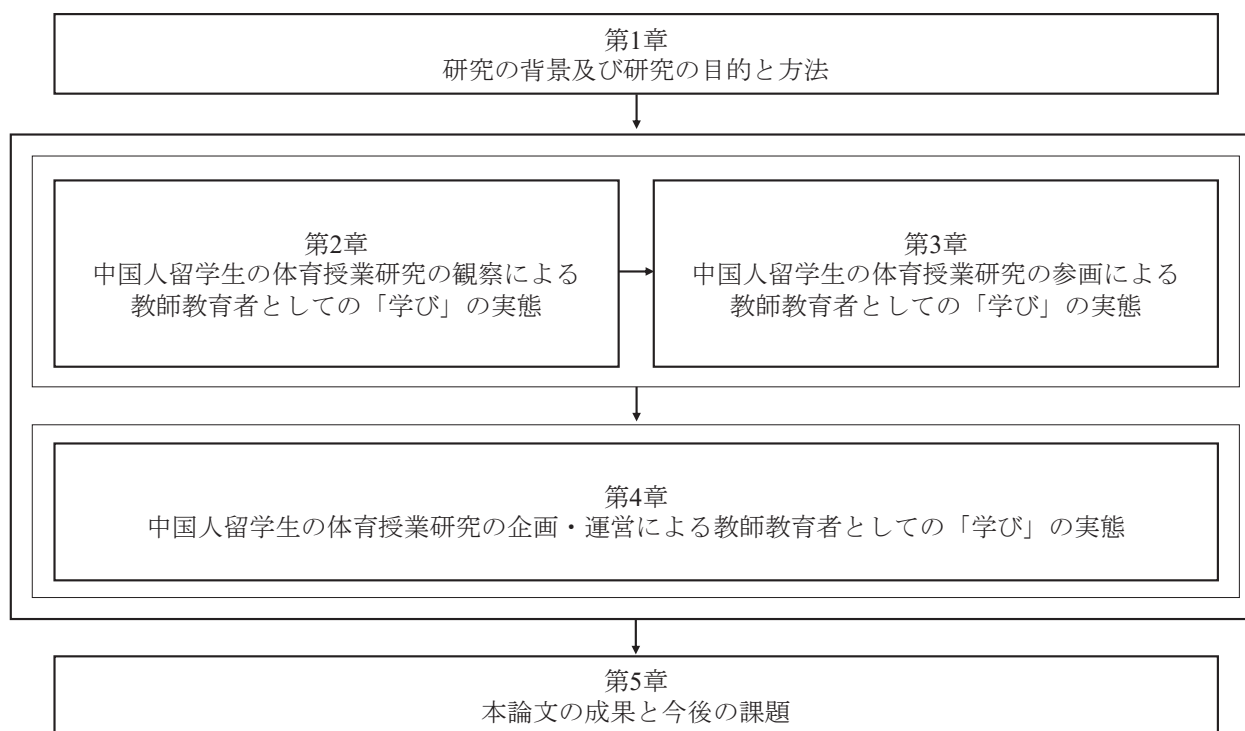


図1 本論文の構成

## 7. 結果

### 7.1. 中国人留学生の体育授業研究の観察による教師教育者としての「学び」の実態

第2章では、小学校A、中学校B、小学校Cにおいて、体育授業研究の実態の観察や視察を行った留学生Aを対象とした。調査内容として、(1) 留学生Aが体育授業研究の観察や視察の際にとったフィールドノート、(2) 留学生Aが体育授業研究の観察後に書いた日記、(3) (1)及び(2)の記録をもとに、視察後に行った振り返りとしてのグループインタビューを実施した。調査で得られたテキストデータについて、大谷(2019)で提案されているSCATを用いて分析を行った。表1は、対象校の概要とその特徴を示している。

表1 対象校の概要とその特徴

日時	校種	特徴	留学生Aが参加した授業研究の内容
2018年 10月19日	小学校A	体育や保健の授業改善に力点を置く学校であり、体育や保健の授業研究の研究指定校になるように申請中	学校施設や教育方針、授業研究の実施状況などに関する校長室での協議への参加
	中学校B	体力向上推進校	体育授業(マット運動)の観察、研究授業後の協議会への参加、校内研修の打ち合わせへの参加

	小学校 C	体力向上推進校	ボール運動（フラッグフットボール）の観察，全体講演会の視聴
2018年 11月2日	中学校 B	体力向上推進校	校内研修の一環としてのマット運動の観察，ワークショップ型の事後協議会への参加

結果として，以下の2点が明らかとなった。第1に，留学生 A の日本の体育授業研究のシステムや体育授業作りの仕組みの「学び」についてである。まず，日本の体育授業研究のシステムについて，留学生 A は，授業研究を①授業の準備，②研究授業の実施，③授業後の協議会といった3つの段階として捉えることの重要性に気づいた。そして，②研究授業の実施，③授業後の協議会，①授業の準備という順に気づきや「学び」を深めていた。事前準備の段階において，留学生 A は，教師教育者として教師や学習者とのラポールを形成し，協同的なコミュニティを構築することの重要性と教師教育者の「仲介者」としての苦労を学んだ。研究授業の実施の段階において，留学生 A は，日本の体育授業作りの仕組み，体育授業の目標設定や教師行動に気づき，中国の体育授業と比較する中で体育科の本質を捉え直す契機となった。授業後の協議会の段階において，留学生 A は，具体的な協議会の方略や教師のリフレクションの変化を目の当たりにすることで，授業研究における協議会の重要性について学ぶことができた。また，教師たちの協同的省察を促す，指導助言者の役割と指導助言者ごとの授業研究スタイルの違いを学んだ。

第2に，日本の授業研究を支える学校文化の「学び」についてである。具体的には，留学生 A が，日本の学校や授業を視察する際に，日本との比較を通しながら，お互いの国の教育や授業の特徴に気づき，自国である中国・内モンゴルの教育や体育授業に対する理解を深めることができた。それによって，自他国の学校文化の相違を認める寛容性について学んでいた。また，留学生 A は，学校視察や校長との直接の対話を通して，日本の体育授業研究だけではなく，それを支える学校文化についても「学び」とっていた。

## 7.2. 中国人留学生の体育授業研究の参画による教師教育者としての「学び」の実態

第3章では，X 県の Y 小学校で実施された体育授業研究に参画した留学生 A を対象とした。留学生 A の体育授業研究に参画したプロセスは，表 2 の通りである。また，体育授業研究の実施前のグループインタビュー（インタビュー1）と実施後のグループインタビュー（インタビュー2）で，得られたテキストデータについて，KJ 法（川喜田，1995）の分類手法を援用して帰納的に分析した。



表 2 体育授業研究の概要

内容	事前のミーティング	授業の準備	研究授業の実施	授業後の協議会
期日	2019年7月22日	2019年9月19日	2019年9月20日	2019年9月20日
目的	事前の打ち合わせ・ 授業者の課題の理解	指導案の 作成と修正	授業観察	授業の改善
参加者	留学生 A/ クリティカル フレンド Z氏とK氏/ 授業者	留学生 A/ クリティカル フレンド Z氏とK氏/ 授業者	留学生 A/ クリティカル フレンド Z氏と K氏/ 授業者/学校の教員/ 他の大学院生	留学生 A/ クリティカル フレンド Z氏と K氏/ 授業者/学校の教員/ 他の大学院生
所用 時間	1時間	45分	45分	1時間20分
場所	H大学	Y小学校	Y小学校	Y小学校

結果として、以下の3点が明らかになった。第1に、留学生Aが指導助言者として体育授業研究へ参画することを通して、Lewis(2015)が提案する授業研究の4つの段階(Study→Plan→Do→Reflect)における「学び」が明らかとなった。具体的には、Lewis(2015)の4つの段階において、①Studyの段階では「学び」が生じにくく、留学生Aが学校や教師とどのような関係性を構築していくのかといった課題があったこと、②Planの段階では、指導案を修正する作業を通して、教師の悩みや不安に向き合うことで教師との信頼関係を作り、そして、教師の不安軽減だけでなく、研究授業の質向上に貢献することの重要性を学んでいたこと、③Doの段階では、指導助言者として、授業の観察の視点や協議会に向けたメモの仕方といった指導助言者としての授業観察力の重要性を学んでいたこと、④Reflectの段階では、指導助言をする上での責任感や教師たちへの配慮の必要性を学んでいたこと、が明らかとなった。

第2に、Lewis(2015)が提案する4段階の間の領域における「学び」が明らかとなった。具体的には、①StudyとPlanの間の領域では、指導助言者として事前の教師との関わりのおおきさを学んでいた。②PlanとDoの間の領域では、事前の授業観察によって子どもの理解を深めることができ、さらに、指導助言者として事前の授業観察は重要であることを学んでいた。そして③DoとReflectの間の領域では、事前の協議会のマネジメントや協議会への工夫の必要性を学んでいた。④ReflectとStudyの間の領域では、体育授業研究後の事後交流会の場は初心の教師教育者が教師たちと意見交換をし、さらに、自身を振り返ることで指導助言者としての「学び」につながっていく大事な場であることを学んでいた。

第3に、留学生Aが指導助言者として体育授業研究に参画するプロセスで、ベテラン教師教育者

の働きかけと協同的な教師教育者による活動の影響は大きいことが明らかとなった。具体的には、留学生 A が体育授業研究における指導助言の経験を有するベテラン教師教育者から学んでいたことと、他の教師教育者といった他者との協同的作業の重要性に気づいていた。このことから、初心の教師教育者が、将来、指導助言者として自立していくためには、自身の様々な経験や授業研究に携わる他者からの「学び」が肝要となることが明らかとなった。

### 7.3. 中国人留学生の体育授業研究の企画・運営による教師教育者としての「学び」の実態

第4章では、2020年の10月から11月にかけて中国・内モンゴルのX教員養成校において体育授業研究を企画・運営した留学生Aを対象とした。体育授業研究の参加者は、体育教師8名、学生33名と留学生Aの計42名であった。表3は、留学生Aが企画・運営した体育授業研究の概要を示している。また、留学生Aが企画・運営した体育授業研究に参加した体育教師8名へのインタビュー（調査1）及び、その後に留学生Aとクリティカルフレンドとの2回のグループインタビュー（調査2）を実施した。得られたテキストデータについて、第2章と同様にSCAT（大谷，2019）を用いて分析した。

表3 留学生Aが企画・運営した体育授業研究の概要

内容	事前の模擬授業	授業の準備	研究授業	授業後の協議会
期日	11月20日	11月20日・24日	11月27日	11月27日
目的	模擬授業の観察と現状把握	指導案の作成と修正	授業の観察	授業の改善の検討
参加者	学生33名， 体育教師8名， 留学生A	学生33名， 体育教師1名， 留学生A	学生33名， 体育教師8名， 留学生A	学生33名， 体育教師8名， 留学生A
時間	45分	90分	25分	45分

結果として、以下の3点が明らかとなった。第1に、留学生Aは体育授業研究の企画を通して、授業研究の現状に合った目標設定の重要性に気づいたことである。その要因として、3点が考えられた。1点目に、自国の教育の現状をメタ認知できたことである。2点目に、事前準備を通じた現状把握ができたことである。3点目に、中国・内モンゴルの教育改善に寄与したいという願いが背景にあったことである。

第2に、留学生Aは体育授業研究の運営を通して、教師教育者の支援者としてのあり方について再認識し、自身の教師教育者としてのアイデンティティが芽生えたことである。その要因として、2点が考えられた。1点目に、体育授業研究を通して自己達成感を得たことが留学生Aのアイデンティ

ティ変容に大きな影響を及ぼしたことである。2点目に、中国・内モンゴルの教員研修の改善の試みによる自身の教師教育者としてのあり方について自覚し、留学生 A の教師教育者としてのアイデンティティ形成が大きく進む要因となったことである。

第3に、留学生 A は体育授業研究の企画・運営を通じた自身の今後取り組むべき課題に気づいたことである。その要因として、2点が考えられた。1点目に、留学生 A 自身が体育授業研究の企画・運営において悩みと不安を抱え、葛藤したことによる他の教師教育者との協同活動が必要であることに気づいたことである。さらに、留学生 A は、自らがその先駆けとしての役割を担っているということに気づいていた。2点目に、ベテラン教師教育者の立ち振る舞いが留学生 A 自身の行動を認知・自覚するための鏡となり、自身の技能や知識の不足といった点について自己理解ができたことである。

## 8. 本論文の成果と今後の課題

本論文では、留学生 A を対象に、セルフスタディを手がかりとして、体育授業研究を通じた教師教育者としての「学び」の実態について検討した。そして、研究の目的で提示した3つの研究課題の解明に向けて、分析・検討し、以下の3点の知見を得た。

研究課題 (1) 日本の体育授業研究の観察による留学生 A の教師教育者としての「学び」の実態を明らかにする。

研究課題 (2) 日本の体育授業研究において、指導助言者として参画することによる留学生 A の教師教育者としての「学び」の実態を明らかにする。

研究課題 (3) 中国の教員養成校における体育授業研究の企画・運営による留学生 A の教師教育者としての「学び」の実態を明らかにする。

(1) 留学生 A は教師教育者として、日本の体育授業研究の観察を通じ、授業研究のシステムや体育授業作りの仕組みに関する「学び」と日本の授業研究を支える学校文化に関する「学び」の2点があることが明らかとなった。

(2) 留学生 A は教師教育者として、授業研究のサイクルにおける Study, Plan, Do, Reflect の4段階における「学び」と4段階の間の領域にある新たな「学び」が見出された。また、留学生 A が授業研究における指導助言の経験を有するベテラン教師教育者から学んでいたことと、他の教師教育者といった他者との協同的作業の重要性に気づいていたことが明らかとなった。

(3) 留学生 A が教師教育者として体育授業研究を企画・運営することで、①現状に合った目標設定の重要性、②自身の教師教育者としてのアイデンティティの萌芽、③自身の今後取り組むべき課題への見通し、といった気づきやその要因の3点が明らかとなった。

最後に、本論文の限界と今後の課題についても述べておく。

1点目は、追跡調査の必要性である。留学生 A がどのような教育に関する価値観を持っているの

か、そして、日本の体育授業研究を通して学んだことを、自国での授業改善や授業研究を実践する際にいかに役に立てるのか、追跡調査が必要である。2点目は、事例の蓄積の必要性である。より一般的な傾向を明らかにするために、留学生 A の日本の体育授業研究を通じた教師教育者としての「学び」に関する研究をケーススタディとして蓄積していく必要がある。3点目は、留学生 A の教師教育者としての「学び」について、教師教育者の視点のみからの考察となった。そのため、今後は、教師教育者の影響を受けた教師を対象に教師教育者の専門性開発を検討するなどして、多角的に教師教育者の「学び」を評価する必要がある。

## 引用文献

### 日本語文献

- 秋田喜代美（2007）教育・学習研究における質的研究. 秋田喜代美・藤江康彦（編）事例から学ぶはじめての質的研究法：教育・学習編. 東京図書：東京, pp.3-20.
- 秋田喜代美（2008）授業検討会談話と教師の学習. 秋田喜代美・キャサリン ルイス（編）授業の研究教師の学習—レッスンスターディーへのいざない. 明石書店：東京, pp.114-131.
- 馬場卓也・中井一芳（2009）国際教育協力における授業研究アプローチの可能性—ザンビアの事例をもとに—. 国際教育協力論集, 12（2）：107-118.
- 千々布敏弥（2005）日本の教師再生戦略, 教育出版：東京.
- 千々布敏弥（2014）授業研究とプロフェッショナル・ラーニング・コミュニティー構築の関連—国立教育政策研究所「教員の質の向上に関する調査研究」の結果分析より—. 国立教育政策研究所紀要, 143：251-261.
- デンジン・リンカン：平山満義訳（2006）質的研究ハンドブック 1 巻：質的研究のパラダイムと展望. 北大路書房：京都. 〈Denzin, N.K. and Lincoln, Y.S. (2000) (Eds.) Handbook of qualitative research. London: Sage.〉
- エリクソン：岩瀬庸理訳（1973）アイデンティティ—青年と危機—. 金沢文庫. 〈Erik H. Erikson (1968) Identity: youth and Crisis. New York: W.W. Norton and Co., Inc.〉
- 藤井斉亮（2013）算数数学教育における授業研究の現状と課題. 日本教科教育学会誌, 35（4）：83-88.
- 深見英一郎（2008）中華人民共和国の学校体育制度に関する研究. 天理大学学報, 59（3）：21-31.
- 深見英一郎・田中裕一郎・岡澤祥訓（2015）体育授業における熟練教師と新任教師の指導技術の比較研究—教師のフィードバックと授業場面の期間記録及び子どもの受けとめ方との関係を通して—. スポーツ教育学研究, 34（2）：1-16.
- フリック：鈴木聡志訳（2016）質的研究のデザイン（Sage 質的研究キット 1）. 新曜社. 〈Flick, U. (2007) Designing qualitative research (Sage Qualitative Research Kit 1). London: Sage.〉
- 古重奈央（2019）日本の小学校における片づけの取り組み—海外帰国児童へのインタビューによる諸外国との比較から—. 千葉大学教育学部研究紀要,（67）：213-218.
- 濱本想子（2021）剣道を専門種目とする初任教师教育者のセルフスタディー—アスリートアイデンティティと教育者アイデンティティの連関—. 名桜大学紀要,（26）：59-70.
- 日野克博（2004）「授業研究」Q and A. 体育科教育, 52（6）：26-29.

- 久富善之（1994）日本の教員文化－その社会学的研究－．多賀出版：東京．
- 細越淳二（2006）授業研究は体育授業をどのように変えてきたのか．体育科教育，54（7）：48-51．
- 今福輪太郎（2019）理論的貢献ができる研究をデザインする－研究パラダイムの理解の重要性－．医学教育，50（1）：53-60．
- 稲垣忠彦（1996）授業と授業研究を開くために．稲垣忠彦・佐藤学著（編）子供と教育－授業研究入門－．岩波書店：東京，pp.141-237．
- 石井洋（2015a）ザンビアのある数学教師グループの授業実践の変容に関する研究－授業研究における教師グループの談話に着目して－．数学教育学研究，21（1）：11-21．
- 石井洋（2015b）授業研究導入における数学教師の変容の阻害要因に関する一考察－開発途上国の事例に着目して－．北海道教育大学紀要，教育科学編，66（1）：115-121．
- 岩田昌太郎（2020）体育の授業研究における教師教育者の役割．木原成一郎・大後戸一樹・久保研二・村井潤・加登本仁（編）子どもの学びがみえてくる体育授業のすゝめ．創文企画：東京，pp.33-40．
- 岩田昌太郎（2021）第8章 教師教育研究．体育科教育学会（編）体育科教育学研究ハンドブック．大修館書店：東京，pp.126-132．
- 岩田昌太郎・濱本想子・中川昂・室本佳祐・白石愛・辻亮太・敖敦其其格（2019）「授業構想力」からワークショップ型校内研修の成果をいかに俯瞰するか－X市中学校保健体育部会の研修を事例として－．学校教育実践学研究，（25）：127-137．
- 岩田昌太郎・松岡重信・木原成一郎（2006）教育実習における指導内容に関する事例研究－実習誌とインタビューを手がかりに－．体育科教育学研究，22（2）：1-10．
- 神野周太郎・大橋道雄（2014）体育学における学校体育の本質の一端に関する検討－デューイの教育学を中心として－．東京芸術大学紀要，66：33-43．
- 郭菲（2019）日本の大学院の実践共同体に参加する初期段階における学習過程－ある中国人留学生のインタビュー調査から得た理解－．阪大日本語研究，（31）：17-47．
- 亀井美弥子（2006）職場参加におけるアイデンティティ変容と学びの組織化の関係－新人の視点から見た学びの手がかりをめぐって－．発達心理学研究，17（1）：14-17．
- 川喜田二郎（1995）発想法－創造性開発のために－（69版）．中公新書：東京．
- 木原成一郎・大後戸一樹・齊藤一彦・岩田昌太郎・久保研二・村井潤・加登本仁・嘉数健悟（2018）校内研修として行われる体育授業研究の役割－日本における授業研究の役割と中国での授業研究の現状と課題－．体育科教育学研究，34（1）：61．

- 木原成一郎・大後戸一樹・齊藤一彦・久保研二・村井潤・嘉数健悟（2017）校内研修として行われる体育授業研究の役割ー中国と東南アジアの現状と課題ー. 体育科教育学研究, 33（1）：68.
- 木原俊行（2004）授業研究と教師の成長. 日本文教出版：大阪.
- 木原俊行（2006）教師が磨き合う学校研究. ぎょうせい：東京.
- 金鍾成・弘胤佑（2018）社会科教育学と歴史学におけるコラボレーションの意義と可能性ー2人の大学院生により授業改善のセルフスタディー. 日本教科教育学会誌, 40（4）：13-24.
- 木村寿一（2015）教育とスポーツI. 齊藤一彦・岡田千あき・鈴木直文（編著）スポーツと国際協カースポーツに秘められた豊かな可能性ー. 大修館書店：東京, 92-108.
- 木下康仁（2007）ライブ講義 M-GTAー実践的質的研究法 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべてー. 弘文堂：東京.
- 小林克樹（2013）校内研修における教師の協働が研修意欲に与える効果に関する事例研究. 教育実践研究, 23：301-306.
- 紅林伸幸（2007）協働の同僚性としての《チーム》ー学校臨床社会学からー（〈特集〉教育現場の多様化と教育学の課題）. 教育学研究, 74（2）：174-188.
- 丸山恭司・尾川満宏・森下真実（2019）教員養成を担う「先生の先生になる」ための学びとキャリアー. 溪水社：広島.
- 的場正美（2005）世界における授業研究の動向. 日本教育方法学会（編）現代の教育課程改革と授業論の研究, 図書文化：東京.
- 的場正美（2008）レッスンスタディーを継続させ, 豊かにする授業分析の役割ーコミュニティの中での大学と学校の連携によるレッスンスタディー. 秋田喜代美・キャサリン ルイス（編）授業の研究教師の学習ーレッスンスタディーへのいざないー. 明石書店：東京, pp.169-185.
- 的場正美・サルカール アラニ モハメッド レザ・花崎恵理・伊藤久仁香・白山真澄・可児美佐子（2006）アメリカにおける授業研究の動向と挑戦（1）スティグラー・グループの研究課題と成果の分析. 中等教育研究センター紀要,（5-6）：51-68.
- 松木健一（2008）学校を変えるロングスパンの授業研究の創造. 秋田喜代美・キャサリン ルイス（編）授業の研究教師の学習ーレッスンスタディーへのいざないー. 明石書店：東京, pp.186-197.
- 松岡里奈（2021）日本語教育実習生見学用授業に学習者役で参加した大学院留学生の気づきと学びに関する一考察. 日本語・日本文化,（48）：73-96.
- 松浦智恵美（2018）新人看護師の熟達について正統的周辺参加論による分析の可能性. Core Ethics：コ

- ア・エシックス, (14) : 271-281.
- メリアム, S. B. (2004) 堀薫夫・久保真人・成島美弥 (訳) 質的調査法入門ー教育における調査法とケース・スタディー. ミネルヴァ書房 : 京都.
- 三宅貴久子・岸磨貴子・久保田賢一・李克東 (2016) 中国における思考力育成に対する教師の意識の検討ーシンキングツールの活用を事例としてー. 日本教育工学会論文誌, 40 (Suppl.) : 53-56.
- 村川雅弘 (2010) 「ワークショップ型校内研修」で学校が変わる学校を変える. 教育開発研究所.
- 村岡有香 (2012) 気づきを高める英語教育 Noticing Enhancement in English Education. 教育研究, (54) : 233-244.
- 無藤隆 (2008) 教師の学びの新しい可能性. 秋田喜代美・キャサリン ルイス (編) 授業の研究教師の学習ーレッスンスターディーへのいざないー. 明石書店 : 東京, pp.208-212.
- 中野和光 (2009) 刊行の言葉. 日本教科教育法学会 (編) 日本の授業研究 (下巻), 文学社 : i-ii.
- 西城卓也 (2012) 正統的周辺参加論と認知的徒弟制. 医学教育, 43 (4) : 292-293.
- 西尾三津子・久保田賢一 (2011) 授業研究の導入による協働性の形成ーポリビアにおける教育開発の事例よりー. 情報研究, (35) : 33-51.
- 西尾朋子・石川英志 (2010) 校内授業研究の現状と今後のビジョンの構築ー全校研究会の在り方に焦点を当てて. 岐阜大学教育学部研究報告教育実践研究, 12 : 275-292.
- 越智拓也・上田裕太・磯崎哲夫 (2018) 中学校理科教師の専門的成長に関する質的研究ー授業研究から何を学ぶのかー. 科学教育研究, 42 (3) : 231-241.
- 岡村美由規 (2019) 欧米の高等教育機関の教師教育者に求められる資質・能力に関する議論動向と問題点 : 教師教育者の専門性の高度化と専門職化運動との逆説が示唆するもの. 広島大学大学院教育学研究科紀要, (68) : 45-54.
- 大谷尚 (2019) 質的研究の考え方ー研究方法論から SCAT による分析までー. 名古屋大学出版会 : 愛知.
- 大脇康弘・西川潔 (2014) 学校組織開発の理論形成と実践的省察ー佐古秀一氏の所論を中心にー. 大阪教育大学紀要, 62 (2) : 167-180.
- 小柳和喜雄 (2018) 教師教育者のアイデンティティと専門意識の関係考察 : Self-study, Professional Capital, Resilient Teacher の視点から. 奈良教育大学教職大学院研究紀要「学校教育実践研究」, 10 : 1-10.
- レイブ・ウェンガー : 佐伯胖訳 (1993) 状況に埋め込まれた認知ー正統的周辺参加ー. 産業図書. (Lave, J. and Wenger, E. (1991) Situated learning: Legitimate peripheral participation. University Press: Cambridge, UK.)



- 李麗麗 (2011) 中国人大学院留学生のアカデミック・インターアクションに関する調査－正統的周辺参加から十全的参加への過程の分析と考察－. 桜美林言語教育論叢, (7) : 17-31.
- ロックラン, J. J. : 武田信子監修 (2019) J.ロックランに学ぶ教師教育とセルフスタディ. 学文社 : 東京.
- ルイス, C. (2008) 授業研究－アメリカ合衆国における発展と挑戦－. 秋田喜代美・キャサリン ルイス (編) 授業の研究教師の学習－レッスンスタディーへのいざない－. 明石書店 : 東京, pp.12-23.
- ルーネンベルク・デンヘリンク・コルトハーヘン : 武田信子・山辺恵理子 (監訳) (2017) 専門職としての教師教育者 : 教師を育てるひとの役割, 行動と成長. 玉川大学出版部 (Lunenberg, M., Dengerink, J. and Korthagen, F. (2014) The professional teacher educator: Roles, behaviour, and professional development of teacher educators. Sense publishers.)
- 佐伯胖 (1995) 「学ぶ」ということの意味－子ども教育－. 岩波書店 : 東京.
- 齊藤一彦 (2020) コラム 4 : 開発途上国におけるレッスン・スタディ. 木原成一郎・大後戸一樹・久保研二・村井潤・加登本仁 (編) 子どもの学びがみえてくる体育授業のすゝめ. 創文企画 : 東京, pp.66-68.
- 齊藤眞宏 (2021) 教師教育におけるセルフスタディー日本の学校教育におけるその意味の考察－. 旭川大学経済学部紀要, (79・80) : 147-163.
- 坂井武司・石坂広樹・田村和之・赤井秀行・小澤大成 (2019) グローバルレッスンスタディーのためのプログラム開発に関する研究－研究授業前の協議に焦点を当てて－. 鳴門教育大学国際教育協力研究, (12) : 15-26.
- 榎原禎宏 (2013) 校内研究における「仮説－検証問題」. 京都教育大学紀要, (123) : 171-181.
- 坂本篤史 (2013) 協同的な省察場面を通じた教師の学習過程－小学校における授業研究事後協議会の検討－. 風間書房 : 東京.
- 坂本篤史・秋田喜代美 (2008) 授業研究協議会での教員の学習－小学校教員の思考課程の分析－. 秋田喜代美・キャサリン ルイス (編) 授業の研究教員の学習－レッスンスタディーへのいざない－. 明石書店 : 東京, pp.98-114.
- サルカール, アラニ, モハメッド・L. (2014) 授業研究のグローバル化とローカル化. 日本教育方法学会 (編) 授業研究と校内研修－教師の成長と学校づくりのために－. 図書文化 : 東京, pp.106-119.
- 佐藤綾 (2019) 学習環境デザインに基づく社会との関わりを指向した授業における留学生の学び. 国際教育交流研究, (3) : 15-30.

- 佐藤学 (1995) 学びの対話的実践へ. 佐伯胖・藤田英典・佐藤学 (編著) 学びへの誘い (シリーズ学びと文化①). 東京大学出版会: 東京, pp.49-91.
- 佐藤学 (2008) 日本の授業研究の歴史的重層性について. 秋田喜代美・キャサリン ルイス (編) 授業の研究教師の学習-レッスンスターディへのいざない-. 明石書店: 東京, pp.43-46.
- 澤本和子 (2017) カナダにおける Lesson Study. 小柳和喜雄・柴田好章 (編) 教育工学選書II: Lesson Study (レッスンスターディ). ミネルヴァ書房: 京都, pp.78-95.
- ショーン, D. : 柳沢昌一・三輪健二 監訳 (2007) 省察的実践とは何か-プロフェッショナルの行為と思考-. 鳳書房. 〈Schön D. (1983) The reflective practitioner: How professionals think in action, Basic Books: New York.〉
- 重田美咲 (2008) 工学系大学院留学生の「正統的周辺参加」と日本語学習. 広島大学大学院教育学研究科紀要, (57) : 255-262.
- 白石智也・岩田昌太郎・齊藤一彦 (2020) ウガンダ共和国における授業研究を用いた体育教員研修会の効果の検討-New World Kirkpatrick Model を適用した研修評価-. 体育学研究, 65 (0) : 125-141.
- 白水始・三宅なほみ (2008) 学習科学から見たレッスンスターディ. 秋田喜代美・キャサリン ルイス (編) 授業の研究教師の学習-レッスンスターディへのいざない-. 明石書店: 東京, pp.202-207.
- 鈴木秀人 (2011) 体づくり運動と子どもをめぐる今日的課題. 体育科教育, 1 : 10-13.
- 鈴木聡 (2016) 体育科を研究する小学校校内研究会における外部講師の存在意義に関する研究-体育・スポーツ政策の媒介としての存在に着目して, 日本体育・スポーツ政策研究, 25 (1) : 1-18.
- 高橋健夫 (1992) 体育授業研究の方法に関する論議. スポーツ教育学研究, 20 (特別号) : 19-31.
- 高橋健夫・岡沢祥訓・中井隆司 (1989) 教師の「相互作用」行動が児童の学習行動及び授業成果に及ぼす影響について. 体育学研究, 34 (3) : 191-200.
- 武田信子 (2017) 日本における教師教育者研究の発展を期して-訳者あとがき-. ミーケ・ルーネンベルク・ユリエン・デンヘリンク・フレット・A・Jコルトハーヘン (著) 武田信子・山辺恵理子 (監訳) 専門職としての教師教育者: 教師を育てるひとの役割, 行動と成長. 玉川大学出版部: 東京, pp.166-173.
- 武田信子 (2019) 序: 本書を読み進める前に. ロックラン, J.J. : 武田信子 (監修) J.ロックランに学ぶ 教師教育とセルフスターディ. 学文社: 東京, pp.1-8.
- 田中義隆 (2011) インドネシアの教育-レッスン・スターディは授業の質的向上を可能にしたのか-. 明石書店: 東京.

- ウルフ, G.・秋田喜代美 (2008) レッスンスタディの国際動向と授業研究への問いー日本・アメリカ・香港におけるレッスンスタディの比較研究ー. 秋田喜代美・キャサリン ルイス (編) 授業の研究教師の学習ーレッスンスタディーへのいざないー, 明石書店: 東京, pp.24-42.
- 梅本真知子・木原成一郎 (2018) 校内研修としての体育の授業研究ー「のぼりサファリでおもいっきり走ろう」の実践を通してー. 体育科教育, 66 (10) : 62-65.
- 臼井嘉一 (2009) 授業研究とは何かー日本の授業研究と教師教育ー. 日本教育方法学会 (編) 日本の授業研究 (上巻), 学文社: 東京, pp.1-10.
- 若林満 (2006) 組織内キャリア発達とその環境 (追悼・再録論文). 経営行動科学, 19 (2) : 77-108.
- 山本佳代 (2021) 教室の国際化によって生まれる気づきー留学生との英語プレゼンテーション交流ー. 教育・学生支援センター紀要, (5) : 27-34.
- 山内貴弘 (2017) 企業における新卒一年目の新人の学習過程ーIT 企業における正統的周辺参加を手がかりとしてー. 日本学習社会学会年報, 13 (0) : 48-58.
- 山崎準二 (2002) 教師のライフコース研究. 創風社: 愛媛.
- 安井仁・吉田有希 (2019) 安全に留意した保健体育における授業のやりくり. 鳥取大学附属中学校研究紀要, (50) : 119-124.
- 臧俐 (2020) 中国の「教師教育課程標準」に見られる新しい教師像. 立正大学教職教育センター年報, (2) : 39-47.

## 英語文献

- Brown, J. S. and Duguid, P. (1991) Organizational learning and communities-of-practice: Toward a unified view of working, learning, and innovation. *Organization Science*, 2(1): 40-57.
- Chao, Q. (2015) The professional development of teacher educators in Shanghai. Doctoral dissertation University of Glasgow.
- Clarke, A. and Erickson, G. (2004) The nature of teaching and learning in Self-Study. Loughran, J.J., Hamilton, M.L., LaBoskey, V.K., Russell, T. (Eds.) *International Handbook of Self-Study of Teaching and Teacher Education Practices*. Springer: NY, pp.41-67.
- Cochran-Smith, M. (2003) Learning and unlearning: The education of teacher educators. *Teaching and Teacher Education*, 19(1): 5-28.
- Cochran-Smith, M. and Lytle, S. L. (1999) Relationships of knowledge and practice: Teacher learning in

- communities. *Review of Research in Education*, 24: 249-305.
- Cochran-Smith, M. and Zeichner, K.M. (2005) Executive summary. *Studying Teacher Education*, ed. M. Cochran-Smith and K.M. Zeichner, Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates: 1-36.
- Curtner-Smith, M.D. (2001) The occupational socialization of a first-year physical education teacher with a teaching orientation. *Sport, Education and Society*, 6(1): 81-105.
- Dinkelman, T., Margolis, J. and Sikkenga, K. (2006) From teacher to teacher educator: Experiences, expectations, and expatriation. *Studying Teacher Education*, 2(1): 5-23.
- Guba, E.G. and Lincoln, Y.S. (2005) Paradigmatic controversies, contradictions and emerging confluences. Denzin, N.K. and Lincoln, Y.S. (Eds.) *Handbook of Qualitative Research*. 3rd ed. Sage Publications, Thousand Oaks, CA: pp.191-215.
- Hadar, L. and Brody, D. (2010) From isolation to symphonic harmony: Building a professional development community among teacher educators. *Teaching and Teacher Education*, 26: 1641-1651.
- Huang, R. and Shimizu, Y. (2016) Improving teaching, developing teachers and teacher educators and linking theory and practice through lesson study in mathematics: an international perspective. *ZDM Mathematics Education*, 48: 393-409.
- Isozaki, T. (2015) Why do teachers as a profession engage in lesson study as an essential part of their continuing professional development in Japan? *International Journal of Curriculum and Practice*, 13(1): 31-40.
- Kitchen, J. (2005) Looking backward, moving forward: Understanding my narrative as a teacher educator. *Studying Teacher Education*, 1(1): 17-30.
- Kosnik, C., Menna, L., Dharamshi, P., Miyata, C., Cleovoulou, Y. and Beck, C. (2015) Four spheres of knowledge required: An international study of the professional development of literacy/English teacher educators. *Journal of Education for Teaching*, 41(1): 52-77.
- Koster, B. (2002) *Teacher educators under the microscope: The development of a professional profile for teacher educators and the effects of examining this profile on their self-image*. Utrecht: IVLOS Universiteit Utrecht.
- Koster, B., Brekelmans, M., Korthagen, F. and Wubbels, T. (2005) Quality requirements for teacher educators. *Teaching and Teacher Education*, 21(2): 157-176.
- Kusahara, K. and Iwata, S. (2021) Teacher educators' professional development in Japan. Vanderlinde, R., Smith, K., Murray, J. and Lunenberg, M. (Eds.) *Teacher educators and their professional development: Learning from the past, looking to the future*. Routledge: NY, pp.82-91.

- LaBoskey, V.K. (2004) The methodology of self-study and its theoretical underpinnings. Loughran, J.J., Hamilton, M.L., LaBoskey, V.K. and Russell, T. (Eds.) *International Handbook of Self-Study of Teaching and Teacher Education Practices*. Springer: NY, pp.817-869.
- Lanier, J. and Little, J.W. (1986) Research on teacher education. Wittrock, M. C. (Ed.) *Handbook of Research on Teaching* (3rd ed): NY, pp.527-560.
- Lewis, C. (2002) *Lesson Study: A handbook of teacher-led instructional change*. Research for Better Schools.
- Lewis, C. (2015) What Is Improvement Science? Do We Need It in Education? *Educational Researcher*, 44(1): 54-61.
- Lewis, C. and Tsuchida, I. (1997) Planned educational change in Japan: the case of elementary science instruction. *Journal of Education Policy*, 12(5): 313-331.
- Lewis, C., Perry, R. and Murata, A. (2006) How should research contribute to instructional improvement? The case of lesson study. *Educational Researcher*, 35(3): 3-14.
- Loughran, J.J. (2002) Effective reflective practice : In search of meaning in learning about teaching. *Journal of Teacher Education*, 53: 33-43.
- Loughran, J.J. (2006) *Developing a pedagogy of teacher education: Understanding teaching and learning about teaching*. Routledge: UK/ NY.
- Loughran, J.J. and Berry, A. (2005) Modelling by teacher Educators. *Teaching and Teacher Education*, 21(2): 192-203.
- Lunenberg, M. (2010) Characteristics, scholarship and research of teacher educators. Baker, E. McGaw, B. and Peterson, P. (Eds.) *International Encyclopedia of Education* (3rd edition) Oxford: UK, pp.676-680.
- MacPhail, A. (2011) Professional learning as a physical education teacher educator. *Physical Education and Sport Pedagogy*, 16(4): 435-451.
- MacPhail, A. (2014) Becoming a teacher educator: Legitimate participation and the reflexivity of being situated. Ovens, A, Fletcher, T. (Eds.) *Self-Study in physical education teacher education: Exploring the interplay of practice and scholarship*. Springer: NY, pp.47-62.
- Mason, J. (2002) *Researching your own practice: The discipline of noticing*. Routledge Falme: London.
- Murray, J. and Male, T. (2005) Becoming a teacher educator: Evidence from the field. *Teaching and Teacher Education*, 21(2): 125-142.
- Murray, J., Swennen, A. and Shagrir, L. (2009) Understanding teacher educators' work and identities. Swennen, A.

- and Van der Klink, M. (Eds.) *Becoming a teacher educator: theory and practice for teacher educators*. Springer: NY, pp.29-34.
- Myers, C.B. and Simpson, D. J. (1998) *Re-creating schools: Places where everyone learn and likes it*. Thousand Oaks, Corwin Press: California.
- OECD (2005) *Annual Report 2005 45th Anniversary*. Paris: OECD.
- Ovens, A. and Fletcher, T. (2014) *Self-Study in physical education teacher education: Exploring the interplay of practice and scholarship*. Springer: NY.
- Ping, C., Schellings, G. and Beijaard, D. (2018) Teacher educators' professional learning: A literature review. *Teaching and Teacher Education*, 75: 93-104.
- Pinnegar, S., Hamilton, M. L. (2009) *Self-Study of practice as a genre of qualitative research: Theory, methodology, and Practice*. Dordrecht: Springer: NY.
- Russell, T. and Schuck, S. (2005) Self-study, critical friendship, and the complexities of teacher education. *Studying Teacher Education*, 1(2): 107-121.
- Saito, K., Shiraishi, T. (2021) Lesson Study in Uganda and Peru: The role of physical education lesson study in international educational cooperation. Kim, J., Yoshida, N., Iwata, S. and Kawaguchi, H. (Eds.) *Lesson Study-based teacher education: The potential of the Japanese approach in global settings*. Routledge: NY.
- Saramas, A. (2010) *Self-Study teacher researcher*. Thousand Oaks: Sage.
- Sato, T., Tsuda, E., Ellison, D. and Hodge, S.R. (2020) Japanese elementary teachers' professional development experiences in physical education lesson studies. *Physical Education and Sport Pedagogy*, 25(2): 137-153.
- Schmidt, R.W. (1990) The role of consciousness in second language learning. *Applied Linguistics*, 11(2): 129-158.
- Smith, K. (2005) Teacher educators' expertise: what do novice teachers and teacher educators say? *Teaching and Teacher Education*, 21(2): 177-192.
- Stigler, J.W. and Hiebert, J. (1999) *The teaching gap: Best ideas from the world's teachers for improving education in the classroom*. The Free Press: NY.
- Swennen, A., Jones, K. and Volman, M. (2010) Teacher educators: Their identities, sub-identities and implications for professional development. *Professional Development in Education*, 36(1-2): 131-148.
- Swennen, A., Shagrir, L. and Cooper, M. (2009) *Becoming a teacher educator: Voices of beginning teacher educators*. Swennen, A. and Van der Klink, M. (Eds.) *Becoming a teacher educator: Theory and practice for teacher educators*. Springer: NY, pp.91-102.

- Swennen, A. and Van der Klink, M. (2009) *Becoming a teacher educator: Theory and practice for teacher educators*. Springer: NY.
- Takahashi, A. (2013) *The Role of the Knowledgeable other in lesson study: Examining the final comments of experienced lesson study practitioners*. Mathematics Education Research Group of Australasia, Inc.
- Williams, J. and Davies M. (2021) *The role of teacher educator professional learning in reconfiguring physical education*. *Curriculum Perspectives*, 41(2): 201-211.
- Williams, J., Ritter, J. and Bullock, S.M. (2012) *Understanding the complexity of becoming a teacher educator: Experience, belonging, and practice within a professional learning community*. *A journal of self-study of teacher education practices*, 8(3): 245-260.
- UNESCO (2014) *World-wide Survey of School Physical Education*. UNESCO.
- Van Velzen, C., Van der Klink, M., Swennen, A. and Yaffe, E. (2010) *The induction of teacher educators*. *Professional Development in Education*, 36(1-2): 61-75.

## 中国語文献

- 陳雪儿・俸曉玲 (2019) 中国における教師教育の発展の現状と課題とその対策. *中国成人教育*, (06) : 86-90.
- 費振新 (2017) 高等教育における教師教育者の専門能力開発に関する初歩的な考察—フィールドラーニングの理論に照らして—. *教師教育学報*, 4 (3) : 22-26.
- 黄偉 (2017) 教育の近代化のための教師教育の活性化. *中国教師*, (20) : 16-19.
- 康曉偉 (2012) 教師教育者—意味合い—, アイデンティティ及び役割に関する研究. *教師教育研究*, 24 (1) : 13-17.
- 李徳菊 (2012) 教師教育者の専門性開発に関する研究. 曲阜師範大学修士論文.
- 李学農 (2008) 教師教育者について. *当代教師教育*, 1 (1) : 47-50.
- 廖淋森 (2018) 新時代の高等教育機関における名教師育成の道を探る. *南方農機*, 49 (18) : 23-24.
- 毛振明 (2019) 新中国 70 年の学校体育の成果と新時代の発展の方向性. *天津体育学園学報*, 34 (6) : 461-465.
- 石艶 (2017) 教師教育のセルフスタディにおける「探求の共同体」とは. *グローバル教育展望*, 46 (4) : 76-87.
- 王克勤・馬建峰・盖立春・谷海軍 (2006) 師範教育的転型と教師教育の発展. *教育研究*, (04) : 76-79.

- 王鑒 (2019) 越境の促進者－教師教育者のための専門性開発経路の探求－. 中国教育学刊, (7) : 84-90.
- 王荣生・高晶 (2012) 課例研究の本土の体験と多様性. 教育發展研究, 32 (8) : 31-36.
- 王正青 (2018) 統合的教師教育改革の理論的根拠と実践の道を探る－統合的教師教育改革と制度的イノベーション－. 教師教育学報, 5 (5) : 125.
- 万恒 (2017) 教師教育者の専門性に関する研究. 江蘇教育, (14) : 23-26.
- 荀淵 (2012) 教師教育者とそのセルフスタディ－教師教育の質を高めるための新しい方法－. 教師教育研究, 24 (5) : 12-17.
- 閻建璋・王換芳 (2018) 改革開放 40 年における中国の教師教育政策の変化の分析. 教師教育研究, 30 (05) : 7-13.
- 章賽清 (2013) 学校体育教師の現状に関する国際比較研究. 外国中小学教育, (8) : 43-47.
- 趙英・黄娟 (2018) 高等教育における教師教育者の 3 次元的役割とそのコンピテンシー構造について. 教育學術月刊, (4) : 77-85.
- 鄭丹丹 (2013) 教師教育者とその職業基準に関する国際比較研究. 華東師範大学博士論文.
- 鄭丹丹 (2014) 国際的な視野から見た教師教育者の定義. 現代教育管理, (5) : 70-73.
- 鄭爽・胡鳳陽・張立満 (2012) 教師教育者とその専門性開発について. 石家庄学院紀要, 14 (2) : 93-97.
- 中華人民共和國國務院總局 (2010) 「国家教育制度改革試行開始に関する通知」.  
[http://www.gov.cn/zwggk/2011-01/12/content\\_1783332.htm](http://www.gov.cn/zwggk/2011-01/12/content_1783332.htm) (閲覧日 : 2021 年 9 月 16 日).
- 中華人民共和國教育部 (1993) 「中華人民共和國教師法」中華人民共和國国家主席令第 15 号.  
<https://jwc.wxc.edu.cn/2009/1202/c1541a35766/page.psp> (閲覧日 : 2021 年 10 月 5 日).
- 中華人民共和國教育部 (2001) 「基礎教育カリキュラム改革の概要 (試行用)」.  
[http://www.moe.gov.cn/srcsite/A26/jcj\\_kcjgh/200106/t20010608\\_167343.html](http://www.moe.gov.cn/srcsite/A26/jcj_kcjgh/200106/t20010608_167343.html) (閲覧日 : 2021 年 9 月 8 日).
- 中華人民共和國教育部 (2002) 「第 10 次 5 ヶ年計画における教師教育の改革と発展に関する意見」.  
[http://www.moe.gov.cn/srcsite/A10/s7058/200203/t20020301\\_162696.html](http://www.moe.gov.cn/srcsite/A10/s7058/200203/t20020301_162696.html) (閲覧日 : 2021 年 11 月 8 日).
- 中華人民共和國教育部 (2010) 「国家中長期改革と発展企画綱要 2010-2020」.  
<http://jw.tust.edu.cn/docs/20150109154819444759.pdf> (閲覧日 : 2021 年 9 月 10 日).
- 中華人民共和國教育部 (2011) 「教師教育課程標準」. <http://www.moe.gov.cn/srcsite/A10/s6991/> (閲覧日 : 2021 年 11 月 15 日).
- 中華人民共和國教育部 (2012) 「教師教育の改革の深化に関する意見」. [http://www.gov.cn/zwggk/2012-12/13/content\\_2289684.htm](http://www.gov.cn/zwggk/2012-12/13/content_2289684.htm) (閲覧日 : 2021 年 9 月 15 日).



中華人民共和國教育部（2018）「教師教育活性化のための国家行動計画（2018-2022）」.

[http://www.moe.gov.cn/srcsite/A10/s7034/201803/t20180323\\_331063.html](http://www.moe.gov.cn/srcsite/A10/s7034/201803/t20180323_331063.html)（閲覧日：2021年9月8日）.

仲詩月（2021）中国における教師教育者研究の見直しと展望. 教書育人, (4) : 14-18.